

# 他力

「位職便り」



第十号（平成二十四年八月）

専徳寺住職 弘中満雄

## 「カドを聞く」

### 【パズル】

この頃、三人の子ども達（5・3・1歳）が一緒に遊ぶようになりました。プラレール、料理ごっこ、お相撲等々。ところがすぐ喧嘩になるものがあります。パズルです。アンパンマンとプリキュアのパズル。50ピース（片）くらいのものです。

5歳の兄は、上手にピースを置いていきます。そのスピードについていけず腹を立てる妹。「お兄ちゃんばっかりせんといて！」と順番を求める妹。無視の兄。

半分くらい出来上がった頃、そばで見えていた1歳の弟が自分もやろうとし始めます。手当たり次第にピースを置いていく弟。「やーめーて！ 壊れる！」、悲鳴を上げる兄。弟を押しつける兄。泣きながら、それでもやろうとする弟。もらい泣きする兄。妹はもう別の遊びをしています。

三人で パズルが出来るは  
いつの日か。



### 【聞き所】

讚歎のとき なにもおなじやうにき  
かで、聴 聞はかどをきけ

（蓮如上人御一代記聞書 第51条）

僧侶は読経の後、法施である法話をします。それは仏徳讚歎、仏さまのお徳をお讃えするものです。けれども、

「あのたとえ話は分かりやすかった。」

「あのお話は楽しかった。」

たしかにたとえ話は耳に残ります。しかし法話の聞き所、それはカド（門）、すなわち「肝要」です。

### 【本願の念仏】

1つは念仏です。

たとえるならパズルのカド（角）のようなものです。何千ピースもあるパズルの場合、何をどこにおいていいのやら。けれどもカドはすぐに見つかります。たった4つ。どのような人でもできる行。他でもない私ができる行。それが浄土教の念仏です。

「南無阿弥陀仏」。お念仏申しましょう。そしてもう一つ。それは本願です。

たとえばオセロのカド（角）のようなものです。オセロの必勝法。それは早くカドをとること。カドは絶対にひっくり返されないからです。カドを中心にどんどん自分の色に変わっていきます。



本願の行である念仏は、けっしてひっくり返り（裏切り）ません。「こんな筈ではなかった」とはなりません。それは私の都合の良い願いは1ピースも入っていない、すべて本願、阿弥陀如来の真実の願い（他力本願）からあらわれだ行だからです。

「あなたを救わずにおれない」というお慈悲の結晶、それが本願のお念仏です。言いかえると、本願を聞いていない念仏では往生・成仏はきまりませんし、今の安心はありません。ゆれうごく心境によりそう行なのです。

「念仏がありました。本願（如来の側／他力）のお念仏でした」。聴聞の後味は、結局ここです。そして私自身、そういう後味が残る法話を心がけてまいります。（終）